



—有害な化学物質を避けるためのやさしいガイド—

CHEMICALS & HEALTH in the HOME

家庭の中の化学物質



このブックレットについて

家庭の中で日常使われている化学物質の中にはその安全性に懸念がもたれているものが意外なほど多くあります。このブックレットはそれらを避けるためのヒントをやさしく紹介します。

[もくじ] Contents

| | |
|----------|----|
| はじめに | 2 |
| ・リビング／居間 | 3 |
| ・寝室／和室 | 5 |
| ・こども部屋 | 7 |
| ・バス／トイレ | 9 |
| ・キッチン | 11 |
| ・庭／家まわり | 13 |
| 気になるトピック | 15 |
| 家庭の取組みから | |
| 社会の取組みへ | 19 |

はじめに

Introduction

今日、地球上にすむ人々や動物たちはすべて一北極のシロクマや熱帯雨林のアマガエルから、たった今生まれたばかりの赤ちゃんまで一人工的につくられた何万種類もの化学物質にさらされています。

今や私たち誰もが、好むと好まざるとにかかわらず化学物質のカクテルのなかで毎日生活しているのです。私たちの体からは、ダイオキシン、PCBなどの有害な物質を含む300種以上の人工化学物質が検出されると言われます。そのような化学物質の負荷が、私たちや胎児の健康にどのような問題を起こすのかはほとんど明らかになっていません。これは私たちの祖先がまだかつて経験したことのない事態であり、人類および地球にとっての新たな脅威として認識されなくてはなりません。

とはいえ専門家でもない私たちは、どのようにして家族や自分自身を守ったらよいのでしょうか。生活のそれぞれの場において、科学的に信頼のおける情報がない場合、疑わしいものや未知の化学物質はできるだけ避けるという原則に従うしかありません。そうのように一つ一つのリスクを避けることにより、トータルなリスクを少しでも削減してゆくのです。このブックレットがそのためにお役に立てれば幸いです。

WWFジャパン

LIVING ROOM

リビング／居間

<家族みんなが集うところなのに…>

リビングには家具、電気製品をはじめとして多様なモノが置かれる場でもあります。まず考えなくてはならないのは建材や家具などから発生する**揮発性有機物質(VOC)**(→トピック①)という一連の化学物質群による汚染です。VOCはどの部屋にも共通する問題ですが、特にリビングでは壁紙、カーテン、フローリング、じゅうたん、ソファ、テーブル、家電、その他ブ

ラスチック製品、さらには芳香剤や消臭剤など多くの発生源に囲まれています。

カーテン、ソファなどの繊維、ウレタンクッション、電気製品に使われるプラスチックなどには燃えにくくするため、**臭素系難燃剤**(→トピック②)が使われていることがあります。体内での蓄積性が高く、海外では規制の動きがあります。燃やした場合には臭素化ダイオキシンを

発生させるおそれもあります。またカーテン、じゅうたん、ソファなどの汚れを落ちやすくするため、繊維に**フッ素樹脂加工**(→トピック③)がされますが、その主成分であるフッ素化合物による汚染も近年クロールアップされています。いずれも残留性が強く、有害性が認められており、家庭内の汚染だけでなく、環境中にも広く汚染が確認されています。

どうすればいいの？

新築、リフォームの際には：

- ・ホルムアルデヒドの発生の少ない建材を選びましょう。
- ・できれば床は塩ビのような合成樹脂でない無垢の木材、コルクなどの天然素材を。
- ・新築やリフォーム後は、できる限り長い期間窓を開けて徹底的に換気しましょう。

家具等の購入を考えた時は：

- ・古い家具を大切に。新しいものがほんとうに必要かどうかもう一度考えましょう。
- ・じゅうたんやカーテンなどを買うならフッ素樹脂による防汚加工をしていない天然繊維（ウール、木綿、麻など）のものを。
- ・VOCを発生させるようなプラスチックやウレタンフォームのクッションを使った家具はできるだけ避けましょう。

普段の生活では：

- ・タバコの煙は有害化学物質のデパートです。特に室内での喫煙はどう考えても正当化できるものではありません。
- ・化学物質を使った消臭剤や芳香剤より新鮮な空気を。できるだけ窓を開けましょう！それが難しい場合は、生花や、消臭効果のある重曹やポプリのようなものを使いましょう。

B E D R O O M

寝室／和室

<一日に吸う空気の3分の1は寝室の空気です>

寝室は居間と同様に家具類の占める割合が大きく、それらに含まれる化学物質に対する注意が必要です。タンスやクローゼットに防虫剤として**パラジクロロベンゼン**（→トピック④）が使われている部屋ではその室内濃度に気をつけなければなりません。また、**ドライクリーニング**

（→トピック⑤）から戻ったばかりの衣類からはわずかに残った有機溶剤が揮発することがあります。

和室では**畳**（→トピック⑥）も化学物質の発生源になります。畳にはダニなどを防ぐために有機リン系の殺虫剤を染み込ませた防虫加工紙が敷かれていることが

あります。わらの代わりにプラスチックやファイバーボードなどが使われている場合は、接着剤や着色剤などが問題になります。寝室が和室の場合、就寝中は畳に近い低い位置の空気を長時間吸うことになるので、特に気になります。

どうすればいいの？

居間での注意事項に加えて：

- ・やむを得ずタンスやクローゼットで防虫剤を使う場合は、揮発した防虫成分の濃度が高くないように換気に注意しましょう。ハーブ等を使った天然の防虫剤なら安心です。
- ・ドライクリーニングから戻った服はビニールカバーをはずし、十分風を通してから収納しましょう。
- ・防虫加工した畳は避け、こまめな掃除や通風をよくするなど薬剤に頼らないダニ対策をしましょう。
- ・スキーウェアをはじめとするアウトドア衣料や靴などに使われる防水スプレーの薬剤は吸い込むと危険です。屋内では絶対に使用しないようにしましょう。

NURSER Y

こども部屋

<こどもは小さい大人ではありません>

赤ちゃんや小さなこどもは大人より体重あたりの呼吸量、水分摂取量、食事量が大きく、化学物質に対する感受性も高く、解毒機能等も未発達など、化学物質の影響を受けやすいのです。大人では問題ない環境でも乳児やこどもには有害と

なる場合があります。その上、こどもは床に近い空気を吸うことが多く、まわりにあるものは何でも口に入れたりなめたりすることがあり、同じ家に住んでいても化学物質の影響をより大きく受けるおそれがあります。したがって、家庭の中

でより多くの時間を過ごすこども部屋だけは、化学物質汚染の心配のないサンクチュアリーであってほしいところです。居間、寝室における注意点に加えて、こども部屋では以上のような視点から環境をしっかりと再点検することが重要です。

どうすればいいの？

居間、寝室の注意事項に加えて：

- ・最近あまり見かけなくなりましたが、ポリカーボネート製の哺乳ビン（特に長く使ったものや傷のついたもの）は使わないようにしましょう。環境ホルモン（→トピック⑦）の疑いのあるビスフェノールAがミルクに溶け出すおそれがあります。可能であれば母乳がより望ましいことはいうまでもありません。
- ・ポリ塩化ビニル製のおしゃぶりやおもちゃなどには可塑剤として環境ホルモンが疑われるフタル酸エステル類が含まれている可能性があります。材質を良く調べた上で与えましょう。できれば自然のぬくもりが感じられる木製のおもちゃを。
- ・こども部屋では**使いきりタイプの殺虫剤**（→トピック⑧）（くん蒸剤など）はやめましょう。赤ちゃんがはい回る床や壁面に高濃度に殺虫剤が残留するおそれがあります。
- ・ベビー服やパジャマはキャラクターやロゴなどが鮮やかにプリントされた派手なものより、できるだけ天然素材のシンプルなものを選びましょう。なめるとプリント地に含まれる化学物質がだ液に溶け出すおそれがあります。

BATHROOM



バス／トイレ

<心身ともにリフレッシュさせる場所のはずが…>

大変な一日が終わって、お風呂で心も体もリフレッシュと言いたいところですが、バス・トイレはどの部屋よりも多くの種類と量の化学物質が消費されるところです。

まず何といっても種類も使用量も多いのが界面活性剤です。洗剤、シャンプー、柔軟仕上げ剤、化粧品、歯みがき、消臭剤などあらゆる製品に含まれています。それら全てが問題というわけではありませんが、長年にわたり継続して使われる

ものですから慎重に選びたいものです。また使用後家庭から下水や河川などに排出されるわけですから、環境への影響も考えなくてはなりません。

トリクロサンのような抗菌成分を含む薬用せっけん、洗剤、歯みがき、その他のいろいろな家庭用品が増えています。衛生上の必要性より、「安心」というイメージを与えるために必要以上に使われている場合があります。そのような**抗菌剤の乱用**（→トピック⑨）は「安心」どころ

か、むしろ危険を招きかねません。

その他にもヘアダイ（染毛剤）、洗剤等に使われる蛍光増白剤、芳香・消臭・脱臭剤、塩素系防カビ剤、化粧品の紫外線吸収剤（UVカット商品）・酸化防止剤・着色料などに気になる化学物質が安易に使われている例があります。それらが本当に必要なのか、他に方法がないのかなど、もう一度考えてみましょう。

どうすればいいの？

- ・できれば合成洗剤よりせっけんを。いずれの洗剤でも使う場合は必要最小限を心がけましょう。
- ・トリクロサンをはじめとする抗菌剤や「抗菌」をうたった製品をむやみに使うのはやめましょう。
- ・天然の香料をまねた合成ムスクの一部には有害なものがあります。できるだけ無香料の化粧品を選びましょう。
- ・ヘアダイは避けたほうが無難です。特に妊娠中や小さな子どもがいる場合はやめましょう。
- ・トイレトーパーなどは無漂白のものを。工場での塩素漂白の過程でダイオキシンが生成されることがあります。
- ・パラジクロロベンゼンを使った消臭・芳香剤を風呂場やトイレのような狭く閉じられた空間で使うのは特に避けるべきです。こまめな清掃など薬剤に頼らない方法を考えましょう。
- ・塩酸を含むトイレの洗剤と塩素系の漂白洗剤をいっしょに使うと、有毒な塩素ガスが出ます。絶対に混ぜないで。（「まぜるな危険」の表示があります）。

KITCHEN



キッチン

<口から入る化学物質の最後のチェックポイントです>

今日私たちの食料には、その生産から消費に至るまでさまざまな化学物質が使われます。同一規格の農水産物を大量生産するために農薬などが必要になり、遠隔地への輸送や品質保持のために防腐剤が添加され、プラスチックなどで包装されます。さらに購買意欲を高めるた

めに着色剤や人工香料などが使われます。また、天然の農水産物であっても環境中の有害化学物質による汚染が心配です。そして何よりも、大切な**上水道の水**（→トピック⑩）さえも化学物質の心配から免れるものではありません。

以上のように家庭の台所に届く以前の

段階をチェックするだけでも大変ですが、台所ではバス・トイレに次いで日常的に化学物質が使われます。環境のためには、台所用品から出て行く化学物質にも配慮が欲しいところです。

どうすればいいの？

- ・野菜や果物に残留する農薬を減らすには、水洗い、皮むき、加熱が有効です。できれば農薬を使っていない有機農産物を選びましょう。
- ・内側がエポキシ樹脂でコーティングされている缶詰類は化学物質が溶出していることがあり、なるべく避けましょう。
- ・工場等で加工、調理済みの食品よりも、できるだけ生の新鮮な素材や加工度の低い食材を使った料理を。
- ・食べ物によっては環境中の水銀、ダイオキシン、PCBなどによる汚染が心配です。**特定の魚種に高濃度に蓄積**（→トピック⑩）されやすいことがわかっており、特に妊娠中あるいはその可能性がある女性は摂取量に気をつけなければなりません。
- ・同じ原材料でも部位によって汚染の度合いが異なり、特に脂肪の多い部位は汚染が蓄積されやすいので摂り過ぎに注意しましょう。いずれにしても偏食は栄養学的だけでなく、化学物質の観点からも望ましくありません。いろいろな種類の食品をバランスよくとることが大切です。
- ・水道水に不安がある場合は浄水器を利用するのもよいでしょう。しかし、その性能は商品によりさまざまであり、目的に合ったものを選びましょう。
- ・食品を電子レンジで温める時は、使用可能であることが確かな容器でない限り、ガラスや陶器の容器を使いましょう。その際、塩ビ等のラップが直接食品に触れないよう注意が必要です。
- ・表面が**フッ素樹脂加工**されている**フライパン**（→トピック③）などは過熱させると有害な成分が揮発するので十分注意が必要です。

GARDEN

庭／家まわり

<いのちにぎわう庭と沈黙の庭、どちらが好きですか？>

日本でもDIY（日曜大工）が定着し、園芸用薬剤、塗料、接着剤、防腐剤など注意を要する化学物質が一般家庭でも多量に使われることがあります。

家の床下、家のまわりの庭も有害な化学物質の出どころとなっています。湿度の高い日本では木造家屋のシロア

り対策は欠かすことはできませんが、過度に薬剤に頼るとシロアリだけでなく、そこに住む人間まで追い出すことになりかねません。

せっかく有機野菜を選んで残留農薬に気を付けていても、庭で草花や樹木に殺虫剤等を使っているは何にもなり

ません。また地域によっては、自治体がハエ・蚊発生対策として殺虫剤を全戸に無料配布したり、団地の緑地や公園の樹木の害虫対策として一斉散布したりすることがあります。

どうすればいいの？

- ・効果的なシロアリ対策は個々の家の置かれた状況によって異なり、手法もさまざまです。薬剤のみに頼らない信頼の置ける業者を慎重に選びましょう。
- ・屋内や庭での殺虫・消毒剤の使用は極力避けましょう。せっけん水など農業類に代わるものを利用して有機園芸をめざしてみませんか。
- ・日曜大工をやるなら水性または揮発性物質が少ない塗料や接着剤を使いましょう。最近は天然素材のみで作られた塗料もあります。
- ・特有の刺激臭を持つクレオソートには発ガン性物質を含む多数の有害化学物質が含まれています。クレオソートで防腐処理した木材、ガーデン家具は購入を避けましょう。
- ・夏は屋外で防虫スプレーなどの忌避剤を使うことが多くなりましたが、その成分であるディートの安全性に疑問がもたれています。顔、目、傷口などに直接かからないように十分注意し、屋内に戻ったらすぐにせっけん等でよく洗い落としましょう。
- ・自治体の殺虫・消毒剤等の全戸無償配布や地域の殺虫剤一斉散布については、その必要性、使用薬剤などについてあらかじめ住民との話し合いの場を持つよう求めましょう。

① VOCとシックハウス



揮発性有機物質（VOC）は、建材、家具、塗料など身の回りのさまざまな物から放散される揮発性の化学物質の総称で、合板の接着剤に使われるホルムアルデヒド、塗料に含まれるトルエンやキシレン、シックリ駆除剤のクロルピリホス、プラスチックに含まれるフタル酸ジブチルなど多くの物質があります。

VOCを長期間吸い込み続けたり、短期間に高濃度にさらされたことがきっかけで、ごく微量の化学物質でも頭痛、めまい、目の刺激感、息苦しさなど、さまざまな体調不良が現れるいわゆる「シックハウス症候群」や「化学物質過敏症」に悩む人が増えています。現在、国は13種の物質について室内濃度指針値を定めています。ホルムアルデヒドを含まない接着剤やホルムアルデヒドの少ない合板も増えてきているので、家具の購入や家の新築、リフォームなどの際にはそのようなものを選びましょう。

② 臭素系難燃剤



テレビなどの熱をもつ家電に使われるプラスチック、カーテンのような繊維製品、クッション用ウレタンフォームなどに、燃えにくくするための難燃剤が含まれています。そのうち臭素を含む、ポリ臭素化ジフェニルエーテル類（PBDEs）やテトラブロモビスフェノール（TBBP-A）などが環境中や、人および野生生物の体から高率で検出されています。それらのいくつかは環境ホルモン作用が疑われるとともに、燃やした場合臭素化ダイオキシン類を発生する可能性があります。母乳中に高濃度に見つかったりすることなどから欧州ではいくつかの種類はすでに規制が始まっています。最大の汚染ルートは、家庭の中のチリやホコリに附着したものを吸い込むことによると言われています。

③ フライパンから有毒ガス？



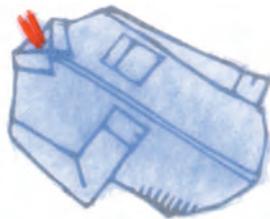
有機フッ素化合物には油や水などをはじく性質を持つものがあり、フライパンなどの調理器具、カーペットや衣類の防水、防汚加工やさまざまな工業部品等まであらゆる場面で使われています。テフロン、スコッチガード、ゴアテックスなどのブランド名で知られています。しかし、近年人や野生生物の体内にこれらの原材料や分解産物であるPFOA、PFOSなどの化学物質が広く検出されることが分かり、その健康や環境への影響について懸念されています。例えば家庭でテフロン加工のようなフッ素樹脂コーティングされたフライパンを使用する場合、空焚きして260度を超すとコーティングが分解され有害ガスを発生するおそれがあります。特に鳥類は敏感で、室内で飼われたペットの鳥が急死した例が報告されています。人も一時的に流感のような症状を示すことがあります。その他、フッ素樹脂を成分とする防水スプレーの屋内での使用は、ガスを吸い込みやすく非常に危険です。

④ パラジクロロベンゼン



パラジクロロベンゼンは日本では衣服の防虫剤や消臭剤として広く使われていますが、人間に対しておそらく発がん性を持つと考えられている物質です。タンスや衣類ケースに入れた防虫剤がいつのまにか消えることからわかるように、この物質は固体から直接気体になってタンス内に充満した後、少しずつ部屋の中に出ていきます。厚生労働省の室内の揮発性有機物質（VOC）の実態調査によれば、日本の家庭のパラジクロロベンゼン濃度は諸外国と比べて2～3倍高く、家庭から環境中に排出される量は年間2万トンと推定されています。防虫剤や消臭剤の使用、特にパラジクロロベンゼンが含まれるものの使用をできるだけ避けましょう。

⑤ ドライクリーニングと化学物質



ドライクリーニングに用いられる石油系溶剤は比較的揮発しにくいいため、クリーニング店から戻った衣服に残っていることがあり、それによって皮膚障害をおこした例も知られています。また、テトラクロロエチレンのような有機塩素系の溶剤もドライクリーニングによく使われます。2003年から公開が始まったPRTRデータ（→トピック⑫）によれば、平成13年度に全国の事業所や家庭から環境中へ排出されたテトラクロロエチレンは全物質中4番目であり（およそ3800トン）、その多くがドライクリーニングによる使用でした。

⑥ 畳の防虫加工



ダニが発生しやすい畳にはJIS規格で防虫処理が定められていて、フェニトロチオンやフェンチオンなどの有機リン系農薬で処理した防虫加工紙を使ったものがたくさんあります。畳の下にさらに防虫シートを敷くこともあります。これらの農薬は知らないうちに揮発して部屋の空気を汚染するおそれがあります。防虫処理した畳の上10cmの空気から高濃度のフェンチオンを検出した例が報告されています。ダニの防止には掃除とこまめな換気が一番です。特にダニが好む高湿度環境になりがちな集合住宅では換気が心がけましょう。畳の日光干し、加熱処理も効果的です。薬剤に頼るより、ダニの発生しにくい条件づくりを心がけましょう。最近では農薬を使わない防虫シートも増えてきています。

⑦ 環境ホルモンは怖くない？



最近マスコミでも取り上げないし、「環境ホルモンは空騒ぎだった」との業界側の声も聞こえます。ほんとうに心配しなくてもいいのでしょうか？

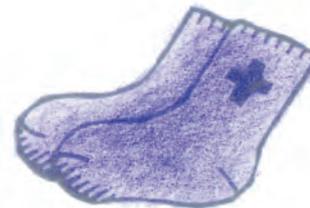
世界の環境ホルモンに関する最新の科学的知見を評価した報告書（2002年、WHO/UNEP/ILO）によれば、環境ホルモンによる野生生物への影響は確かな証拠があるが、人の健康影響に関しては十分な証拠がそろっていないとしています。ただし後者については、影響を確かめることの困難に加え、基礎的情報が欠けていることなどによるもので、心配がなくなったのではなく、免疫や神経系への影響、複合汚染問題など、むしろ心配すべきことがさらに増えたといったほうが近いでしょう。特に胎児や幼児期の影響の問題は、早急に解明し、少しでも安心して子育てができるようにして欲しいものです。

⑧ 使いきりタイプの家庭用殺虫剤



家庭用の殺虫剤、特に「1回使いきりタイプ（くん煙や加熱蒸散させるもの）」の殺虫剤は、多量の化学物質を一度に家の中に散布します。国民生活センターのテストでは、使いきりタイプ殺虫剤1回分の殺虫成分量はスプレー式の殺虫剤の1本分に相当し、換気後も特に床面に成分が付着します。30cm四方の床板に残存する量は、成人の一日摂取許容量近くになることもあります。ハイハイする赤ちゃんがいる家庭やアレルギー体質の人は極力使用を避けましょう。もし使うのであればあとで十分なふきとり掃除を。

⑨ 抗菌グッズ



下着、靴下から調理製品、文房具、電気製品にいたるまで、あちこちで「抗菌グッズ」が目につきます。特に病原性大腸菌O-157事件のあとで急激に増えました。抗菌効果がないもの、抗菌加工の不必要な製品も目立つようになったため最近では自主基準もできていますが、表示義務はありません。医薬品や農薬に使用されている成分を含む抗菌剤が使われ、健康被害がおこる場合もあります。

抗菌グッズは健康な皮膚に存在する常在菌のバランスを崩したり、耐性菌を生じさせるおそれも指摘されています。

「なくても困らない」もののために、余計な化学物質に身をさらすことはありません。その抗菌グッズがほんとうに必要なのか、買う前によく考えましょう。

⑩ 水道水と化学物質

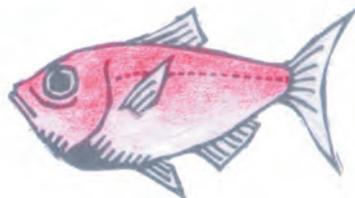


水道水に含まれる物質で問題となるものは、鉛やトリハロメタンがあります。

鉛による影響としては、血液、骨髄、中枢神経系などへの影響や生殖毒性などがあげられます。水道水中の鉛は鉛給水管からの微量の溶出によるもので、抜本的な解決は鉛管をその他の材質の管に交換することですが、個人負担になることもあって、あまり進んでいないようです。

トリハロメタンは水道水の塩素消毒の過程で生じるクロロホルムやプロモホルムなどの総称で、発ガン性が疑われています。急速濾過方式や水質の低下によって水道水に加える塩素量が増加し、それに伴ってトリハロメタンの生成が問題となってきました。加える塩素の量を減らせばトリハロメタンの生成を抑えることができますが、代わりに十分な殺菌力を保てないという問題が生じます。

⑪ 魚と化学物質



魚介類は日本人にとって大切なタンパク源で、私たちの生活にとって欠かせないものですが、その種類によっては水銀、ダイオキシン、PCBをはじめとして環境中のさまざまな有害化学物質を蓄積することが知られています。最近の例として、厚生労働省は平成15年に魚類の水銀濃度調査の結果から、妊娠中もしくは妊娠の可能性のある女性が魚類を食べるときは「イルカ、クジラ、サメは週0.5～1回、メカジキ、キンメダイについては、週2回以下とすることが望ましい」（1回の摂取量を60～80gとして）と発表しました。なぜかより身近なマグロは例示から除かれていましたが、実際は水銀含有量が高く同様の注意が必要です。（注：マグロのような外洋性の魚に含まれる水銀は天然由来とされています。）

⑫ 隣の工場はどんな有害化学物質を排出しているの？



大きな工場などが隣近所にある場合、一体どんな有害化学物質がどのくらい排出されているのか気になりませんか。そのような情報が誰でも入手できる新しい制度が最近動き始めたのをご存じでしょうか。「化学物質排出把握管理促進法」のことで、通称PRTR法（Pollutant Release and Transfer Register）と呼ばれます。事業者が一年間に排出した有害化学物質の量を国に報告し、それを国が集計して公表する制度です。ただし、個別の事業所の排出データを得るには国に書面で手数料を添えて請求しなければなりません。有害化学物質削減ネットワークというNPOのホームページ（<http://www.toxwatch.net>）ならば無料で検索し、データを得ることができます。

◎家庭の取組みから社会の取組みへ

以上、家庭を中心に身の回りの化学物質にどう対処したらよいか、いくつかのヒントをご紹介しました。しかし、私たちが入手できる情報は限られており、注意すべき化学物質は次から次へと増える一方です。これでは家庭内でいくら努力しても限界があります。同時に、私たちがもっと安心して暮らせるような社会全体の取組みも必要ではないでしょうか。



知る権利 Right To Know

私たちが購入する商品やサービスにどんな化学物質がどのくらい使われ、それらの安全性はどうか、といった情報がなかなか得られません。私たちの健康や環境に関わる情報は、私たち市民に「知る権利」があり、本来開示されるべきです。国に対して、また事業者に対して情報の公開をもっと強く主張しなければなりません。

予防原則 Precautionary Principle

化学物質の使用によって人や生態系に有害な影響が現われたとしても、その因

果関係を科学的に立証することが非常に難しく時間もかかることは、タバコ訴訟の例を見れば明らかでしょう。化学物質の場合、有害性が科学的に証明されるのを待っていたのでは、対応が遅れるほど被害が拡大し、取り返しのつかないことになるおそれがあります。科学的に不確実性が残っていても、問題の深刻さに応じて予防的な行動を求める考え方を「予防原則」といいます。

化学物質管理制度の根本的見直し Chemical Reform

なぜそんなにたくさんの有害な、あるいはその疑いのある化学物質が野放しにされているのでしょうか。化学物質の生産や利用を規制する法律は多くの省庁にわたり、何十もあります。それらの多く

は毒性に関する知識が限られ、微量な化学物質の存在を測定できなかった時代に作られたものです。ところが今や化学物質の種類と生産量が飛躍的に増大し、社会のあらゆる場面で使われるようになり、環境中にも大量に排出されています。さらに環境ホルモンのように、これまでの毒性試験では見逃されていた有害性に関する知見も増えつつしており、従来の考え方に基づいた規制や管理ではどのように繕っても、もはや私たちの健康や環境を守りきれないことは明白になってきています。

いまこそ専門家だけでなく市民も参加の上で、現行の化学物質管理の仕組みを根本的に見直し、予防原則の考え方を取り入れた「持続可能な社会における化学物質管理」を確立しなくてはなりません。欧州ではもうすでにそのような動きが始まっています。



最後に、このブックレットでは、化学物質の利用そのものを頭から否定しているわけではありません。実際、私たちが享受している今日の快適で便利な生活や

社会の基盤はそれら化学物質によって支えられており、これからの持続可能な社会にとっても化学物質の果たす役割は非常に大きなものがあります。しかし、これ

までその便利さの陰で、人の健康や環境に対するマイナスの面を冷静に見極めることがなござりにされがちだったのではないのでしょうか。

いまこそ

SAFER CHEMICALS
FOR A HEALTHIER FUTURE

より健康な未来のために、より安全な化学物質を

世界の自然を守る WWF

WWF (World Wide Fund for Nature: 世界自然保護基金) は、1961年に設立された世界最大の民間の自然保護団体です。約500万人と約10,000社・団体からの会費・寄付に支えられ、スイスにあるWWFインターナショナルを中心に日本を含む100カ国以上の国々で自然保護活動を展開しています。森や海など自然環境の保全や、絶滅の危機にある野生生物の保護、地球温暖化の防止などに取り組んでいます。

WWFの使命は、次の3つの活動によって、地球の自然環境の悪化を食い止め、人類が自然と調和して生きられる未来を築くことです。

- 世界の生物多様性を守る
- 再生可能な自然資源の持続可能な利用が確実に行なわれるようにする
- 環境汚染と資源の浪費を改める

*本冊子の内容に関するお問合せは下記まで
WWFジャパン 化学物質担当 FAX：03-3769-1717



ミックス品

FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-001197
© 1996 Forest Stewardship Council



Trademark of American Soybean Association
大豆油インクを使用しています。



WWFをご支援ください！◎WWFの活動は世界中のひとりひとりの方から寄せられた会費や寄付により支えられています。みなさまのご支援をお待ちしております。お問合せ、ご入会ご希望の方は下記までパンフレットをご請求ください。(ホームページでの手続きも可能です)

WWFジャパン (財団法人 世界自然保護基金ジャパン)

〒105-0014 東京都港区芝3-1-14日本生命赤羽橋ビル6F 電話：03-3769-1241 (受付は平日10：00～17：30)

電子メール：hello@wwf.or.jp ホームページ：http://www.wwf.or.jp